

下水道局だより

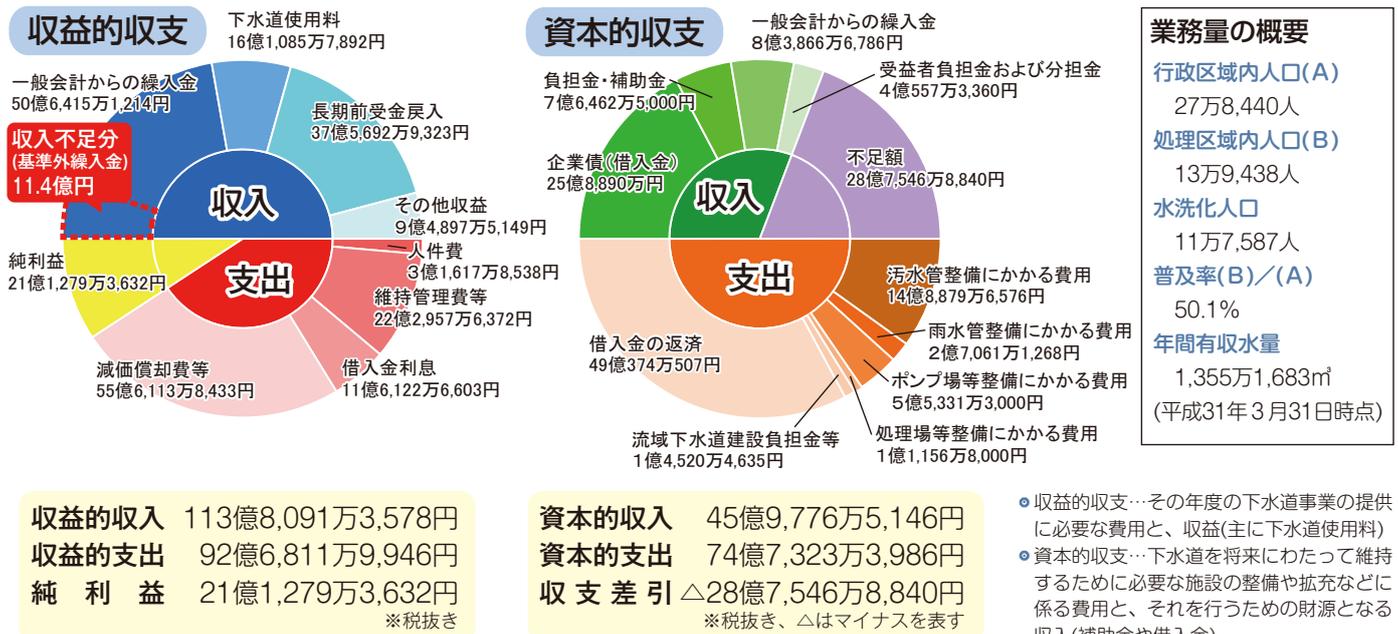
未来に引き継ぐ下水道 vol.7

令和元年11月1日発行
下水道局
☎239-1030 FAX 239-1037

市民の皆さんに津市の下水道事業をもっと知っていただくため、課題や経営状況についてシリーズでお話ししていきます。前回までの下水道局だよりでは、津市の下水道の課題や下水道使用料の改定について紹介しました。

第7回は、公共下水道事業会計の平成30年度決算の状況についてお話しします。

平成30年度決算の状況



【汚水収支】	収益的収入	90億9,364万9,731円
	収益的支出	74億2,376万9,736円
	資本的収入	37億7,336万8,865円
	資本的支出	56億6,880万8,841円

【雨水収支】	収益的収入	22億8,726万3,847円
	収益的支出	18億4,435万 210円
	資本的収入	8億2,439万6,281円
	資本的支出	18億 442万5,145円



平成30年度決算が出たんだね。



そうなんだ。下水道事業では汚れた水をきれいにする汚水処理事業と、浸水対策を行う雨水整備事業の2つの事業を行っているんだけど、原則、汚水は使用料収入などで、雨水は一般会計で負担するんだよ。



汚水処理事業と雨水整備事業を併せた決算なんだね。収益的収支(左グラフ)に21.1億円の純利益が出ているけど収入がたくさんあったんだね。



資本的収支(右グラフ)を見てほしいんだけど、不足額が28.7億円出ているんだ。これを補てん

するために収益的収支の純利益を使っているんだよ。



そういえば、今年度も収益的収支の一般会計からの繰入金の中に、11.4億円の収入不足分が入っているね。



これは汚水分の不足分で平成30年度も下水道事業の収入だけでは経費を賄うことができなかったから、税金を財源とした一般会計からの繰入金で補てんしているんだ。



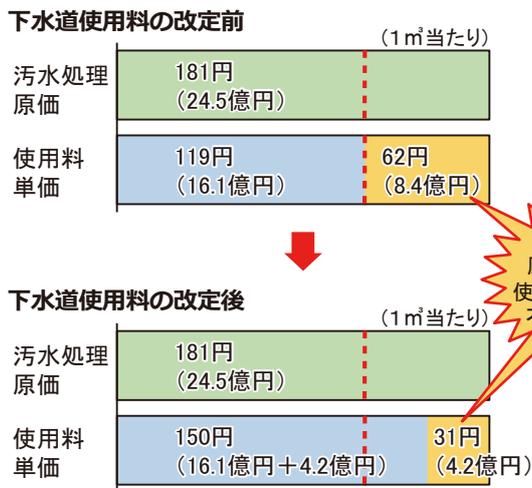
平成30年度も使用料などの収入が足りない分を税金で賄う状況が続いているんだね。

下水道使用料の改定に伴うシミュレーション

 平成29年度は汚水処理の費用が使用料で賄えていなかったよね。平成30年度はどうかの？

 平成30年度の決算値で計算すると、下のグラフのように汚水処理原価が1 m³当たり181円だったのに対して、使用料単価は119円と平成30年度も必要な費用の全てを賄うことができていない状況だったんだ。

汚水処理原価と使用料単価の比較 (平成30年度決算値)



 その不足を税金で補てんしているんだね。金額にすると、どれくらいになるの？

 不足額は1 m³当たり62円で、全体の金額で見ると8.4億円の不足なんだ。

 今年の10月1日に下水道使用料が改定されたけど、その分を加えるとどうなるの？

 平成30年度の決算値に改定後の下水道使用料を当てはめても、1 m³当たり31円の年間不足額が見込まれるんだ。

 まだ不足は残ってしまうんだね。

 だから今後も引き続き効率的な整備を進めるなど、より一層の経費節減が必要なんだ。

 雨水整備事業には不足分はないの？

 必要な費用は一般会計から繰り入れるから、不足分はないんだよ。

平成30年度の主な事業

 収益的支出は、どのような事業に使ったの？

 維持管理費として、ポンプ場や処理場の施設運営や老朽化した設備の修理費などに使ったんだ。

 津市は古い施設が多いの？

 そうなんだ。今後の安全な下水道事業運営を維持するために、平成30年度に下水道ストックマネジメント計画を策定したんだ。それに基づいて長期的視点で施設の修繕や改築に取り組んでいくよ。

 資本的支出はどのような事業に使ったの？

 汚水処理事業として、中央浄化センターの耐震補強工事を1.1億円で実施したよ。この処理場は40年前から使っているんだけど、他にも修理が必要な施設が多いんだ。

 まだまだ設備の修理が必要なんだね。

 また、平成30年4月の志登茂川浄化センター供用開始によって公共下水道を利用できる区域が増えたから、汚水管渠の工事^{かんきょ}も進めているんだよ。

 下水道の整備も着実に進んでいるんだね。雨水整備事業は？

 浸水対策として令和5年の供用開始に向けて、天神ポンプ場の建設工事を進めているんだよ。平成30年度は5.3億円の事業を行ったんだ。これからも安全で安心なまちづくりのため、引き続き浸水対策を進めていくんだよ。

 最近台風や集中豪雨が多いから浸水対策も大事だね！

 そうだね。では次回は、津市の生活排水処理の現状などについてお話しするね。